

〔萬葉集三野連〕名闕入唐時、春日藏首老作歌

在根良、對馬乃渡、渡中爾、幣取向而早還許年。

〔萬葉集略解〕在根良は、布根盡の誤にて、ふねはつるか、又は百船の誤歟、卷十五、毛母布禰乃波都流對馬云々、または百都舟の誤か、是も津とつゞくべしと、翁眞淵茂いはれき宣長は布根竟の誤とせり、何にもせよ、ありねらとては解べきやうなれば、必誤字也。

〔夫木和歌抄二十六〕建長八年百首歌合

こ、ぞこのつしまのわたり浪あらしいかにかぢとり心ゆるすな

題不知

こぎいづるつしまのわたりほどとをみ跡こそかすめゆきの島松

〔夫木和歌抄二十六〕古渡

ふな人のつしまのわたり波たかみすぎわづらふやこの世なるらん

〔夫木和歌抄三十三〕六帖題御歌

今日の日はいかりそへよと舟人のつしまのわたり風もこそたて

〔日本書紀十七〕二十四年十月、調吉士、至自任那、奏言、毛野臣、爲人傲慢、不閑治體○中故遣目頬子徵召○中目頬子初到任那時、在彼鄉家等、贈歌曰、柯羅屢爾鳴、以柯爾輔居等所、梅豆羅古枳駄樓武架左屢樓以祇能和駄喇鳴、梅豆羅古枳駄樓。

〔萬葉集十〕秋雜歌七夕

天漢安渡丹、船浮而秋立待等、妹告與具、

〔萬葉集略解十上〕やすの渡、則天河の一名也、神代紀八十萬神、會合於天安河邊云々と有宣長云、秋は我の誤也、わがたちまつとなりといへるぞよき、與具は乞其の誤なるべし、告こそは告よ